

いじめ対策のための道德教育の在り方 —これまでの道德授業実践を手がかりに—

浅野 翔平 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 大西 祐司

キーワード：いじめ，道德教育，授業実践

1. 諸言

道德の授業は、2015年3月の一部改正学習指導要領によって「特別の教科 道德」へと新たに位置付けられた。いじめに関する痛ましい事案は多数報告されており、道德科への期待が高まっている。

これまでも、いじめに対する道德の授業実践は多数紹介されているが、その成果が体系的に蓄積されてきたわけではない。そこで本研究では、いじめ対策のための道德授業の実践研究の成果から現状と課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

対象とする文献は2015年～2017年7月までに発行されたものとし、「いじめ」「道德授業」「道德教育」をキーワードに学術情報ナビゲーターCiNiiで検索を行った。分析は第一に、道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016)から指導方法の例示として示された三つの指導方法の適応頻度を算出する。第二に、発問の有無とその発問内容を取り上げる。第三に、学習形態を個人(一斉授業)、ペア、グループの3つに分類する。

3. 結果と考察

(1) 指導方法

「問題解決的な学習」を適応した授業実践が最も多くみられ、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を適応した実践は半数以下であった。指導方法に関する課題はほとんど示されておらず、指導方法に関する検証は未だ発展の

途中といえるだろう。

(2) 発問の有無と発問内容

発問は半数程度の実践でみられ、あらかじめ教材の中に課題が含まれているものを加味すると、ほとんどの授業実践で発問が行われていた。発問内容は、傍観者の視点での発問が多く、課題として加害者の視点での発問が求められていた。

(3) 学習形態

個人が最も多く、次にグループ活動、ペア活動が少なかった。加えて、個人からグループ活動に発展する形態が多くみられた。学習形態に関する課題はほとんど示されておらず、今後もいじめ問題等に対応する道德授業を実践し、積み重ねていく必要性が述べられていた。

4. まとめ

いじめ対策のための道德授業の現状として、指導方法では、「問題解決的な学習」が最も多く適応されており、発問はほとんどの授業実践で行われていた。学習形態は、個人が最も多かったが、個人からグループ活動に発展する形態も多くみられた。発問内容の課題は示されていたが、指導方法、学習形態に関する課題は示されていなかった。

【引用参考文献】

道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016)「特別の教科 道德」の指導方法・評価等について(報告)。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/111/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/25/1376297_2.pdf, (参照日 2018年1月20日)。